



学校だより (21)

事務所 947-3111 ・ 授業日 291-1591 ◇<http://www.hjschl.org> ◇e-mail info@hjschl.org

ありの行列

校長 福原輝幸

おもいやりのあるたくましい子どもに育てることは、教育・子育ての大切な柱の一つです。しかし、どうもその柱がしっかりと立っていないような気がして仕方がありません。

以前こんなことがありました。

ある先生がいつものように教室に向かって歩いていきますと、ありがコンクリートの廊下を横切っています。幅（はば）10センチメートルもある大行列です。

一時間目のチャイムが鳴り終わっていましたから、周りにはだれもいません。その先生は、ありの行列をほほえましく思いながら、そつとまたいで通りました。

授業が終わって、職員室に向かっていた先生は、ありのことが気がかりでした。ありの行列はまだ続いていました。

休み時間ですから、子どもたちもローカを行き来しています。このままだとついうっかり踏（ふ）みつけないとも限りません。

先生は、ちょっと考えました。

そして「ありが通っています」と書いた紙をローカに貼（は）りました。「踏んだらだめです」とか「ありに注意しましょう」と書かないで、ただ「ありが通っています」とだけ書きました。

せかせかと行進していたありが、急に安心してローカを横切っているように見えました。

ほっとして先生は、ありの行列を見つめていました。数人の子どもたちも興味（きょうみ）ありげにのぞきこんでいました。

が突然、その内の一人が、こともあろうことか先生の目の前で、はいているスニーカーで「ズドン」と、ありを踏みつけたのです。先生は、愕然（がくぜん）としました。何とも言えない憤（いきどお）りが胸（むね）に込（こ）み上げてきたのです。

問題は、なぜそのような子どもが育ったのかです。その土壌（どじょう）を調べ、原因を検証（けんしょう）しなくてはなりません。

いくら良い種子を蒔（ま）いたとしても、土壌が悪ければ良い苗は育ちません。

思いやりのある子どもを育てるための土壌づくりとは何か。どのようにすればよいのでしょうか。先生の目の前で、ありをふみつけた子どもの土壌とはどんなものなのでしょうか。

ゆれる花

島田 陽子

ゆれる花が好き
あせび アカシア 藤の花
かすかな風にも
蝶にも感応（かんのう）する
花が好き

ゆれる心が好き
二つのもの間をゆれながら
わずかに均衡（きんこう）を
保っている

弱い心が好き

（裏へ）